

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (九州)	◎	観光旅館組合（職員）	・来客数が増加しているため、景気は良くなる。
	◎	観光型ホテル（専務）	・団体客の予約が増えており、先行きが明るい。
	◎	通信会社（社員）	・手数料が増えているため、景気は良くなる。
	◎	観光名所（職員）	・秋の深まりとともに食を中心とした各種イベントが実施され、また、今後も計画されていることから、一層来客増加が見込める。
	○	商店街（代表者）	・来街者数の増加は見込めないため、月々の販売促進企画を実行し、来客数と販売量の増加に期待をしている。
	○	商店街（代表者）	・これから秋祭りが多く催される。価格高騰の影響が考えられるものの、食品や衣類の売上は若干良くなると予想される。
	○	一般小売店〔青果〕（店長）	・台風の影響がかなり心配だが、これから気温が落ち着くこと、県外野菜から地物の野菜に切り替わることから単価は下がっていく。また、利益率が良い果物の種類が増加するため、販売がしやすい状況になっていく。
	○	一般小売店〔生花〕（経営者）	・当店は切り花メインであるため、例年、暑い季節より晩秋の方が売上が良くなる。
	○	百貨店（企画担当）	・中国からの客が増えると予想している。
	○	百貨店（経理担当）	・美術品や宝飾等高額品の売上が徐々に回復傾向になっており、また、衣料品の売上も回復が期待できる。
	○	百貨店（営業担当）	・スポーツ大会の開催や秋の行楽シーズンの準備で、周辺地域を含め人の動きの増加が予想される。また、人気の物産催事の開催や友の会で来店機会が増加し、各階への購買回遊の増加が見込める。スポーツ大会関連の選手、役員、国内外観光客需要の増加で土産需要も始まっており、特産品等の工芸品需要が期待できる。紳士雑貨やインテリア、スポーツ関連が堅調となっており、嗜好性の高いブランド品・舶来雑貨は、依然、価格の上昇はあるものの購入意欲は高い。クレジット利用などにより、来客数や購入量の減少は客単価、商品単価の伸びで補えると予想している。
	○	スーパー（企画担当）	・商品値上げの傾向が落ち着く気配がないため、買上単価の上昇は続く予想される。一方、物価高に対する節約志向になることが予想されるため、状況次第で景気の動向も変わってくる。
	○	コンビニ（経営者）	・商品値上げが続いており、節約志向になることが懸念される一方、そのような傾向はみられず、現状が続くと予想される。
	○	コンビニ（店長）	・景気が一度深刻な状況に陥ったため、若干は改善していくと考えている。
	○	家電量販店（従業員）	・この先、寒くなり暖房器具の需要が増えてくるため、景気はやや良くなることが予想される。
	○	乗用車販売店（従業員）	・ガソリン代は徐々に値下げが始まっており、更なる経済対策があると予想しているため、景気はやや良くなる。
	○	乗用車販売店（役員）	・来月から年内にかけて人気車種の新型車発表を控えており、市場の活性化、新規の客の動きに期待したいところである。販売供給量は今のところ維持できる見通しのため、今月からの受注量の改善を見込んでいる。
	○	乗用車販売店（総務担当）	・当面はメーカーの新車生産が順調に進むとみられる。自動車販売店は、新車が配給されることで売上と利益は確保できるため、下期の決算は好調な実績が予想される。
	○	乗用車販売店（役員）	・新型車の発表を控えているため、多くの来客数や注文数が期待できる。
	○	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・季節要因が大半を占めるが、今後気温は下がっていくためホットコーヒーの需要が多くなる。2～3か月先の販売量や来客数の増加は見込めるため、やや景気は良くなる。
○	高級レストラン（経営者）	・観光客も増え、マスク着用をせずに会合などに出席する人が多くなっている。何かアクシデントが起こらない限りは、12月までどうか今の状態を保てると考えている。	
○	高級レストラン（経営者）	・10月はフグの季節になる。気温は落ち着き、客の予約が入ることを見越しており、今月より景気は良くなると予想している。新型コロナウイルス感染症は落ち着いているが、コロナ禍が続いているような感覚である。景気が良くなることを望んでいる。	

○	観光型ホテル（支配人）	・宿泊は前年とほぼ同じであるが、宴会や婚礼が増加傾向にある。
○	旅行代理店（職員）	・年末年始と春休みの国内外旅行需要が増加すると想定している。
○	通信会社（企画担当）	・足元の受注や見込みは順調である。また、客の見積り相談意欲も旺盛である。
○	通信会社（営業担当）	・スポーツ大会が終わると、いよいよ街全体が新型コロナウイルス感染症発生前の状態に戻ると期待している。
○	ゴルフ場（従業員）	・これから冬にかけて韓国からの来場者も見込まれることから、引き続き良い基調である。
○	美容室（経営者）	・2～3か月先になると秋も深まり、美容業界は活気が出てくる。コスチューム、ヘアスタイル、化粧品などが秋仕様になり動きが出てくる。また、新型コロナウイルス感染症も落ち着き、行動範囲が広がることで景気が上向きになってくる。
○	美容室（店長）	・気候が良くなると外出する機会も多くなるため、少し景気が良くなると予想される。
□	商店街（代表者）	・気候変動が景気を下げていると考えられるが、景気が悪い要因をはっきりとはつかめていないため、心配している。飲食店の景気にも差があり、同様な印象を受けている。
□	商店街（代表者）	・インボイス制度による特需は減少すると考えられるが、10月になると年末の動きが徐々に出ると予想される。
□	商店街（代表者）	・景気はすぐに回復せず、今後も同じ状態が続く。
□	商店街（代表者）	・気候も良くなっていくと客の食欲も出てくるが、現状の商店街の状態をみるとインバウンドや地域の客が減少傾向にあり、売上増は見込めない。
□	商店街（代表者）	・物価が上昇しているが所得が上がらず、先行きが不安な状況では景気の回復は望めない。
□	商店街（代表者）	・商店街全体ではインバウンドの影響を捉えにくい。外国人は増加傾向となっているものの、以前のような中国人の爆買いは当地ではみられなくなっている。インボイス制度が始まるが、非課税業者にとっては職業的差別にもつながりかねない大きな問題である。非課税業者に対して取引をやめないようにしていくことが、社会全体として重要である。
□	一般小売店〔精肉〕（店員）	・客単価や販売量は増加すると想定しているが、働き手が不足しており、需要に対応できるか先行き不透明である。
□	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・サンマの価格はまだ高値が付いているが、形が良くなっており、徐々に供給しやすい状態になりつつある。他の魚も良い状況になってくると期待をしているが、対策をしなければ、当地から魚屋が減少していくことになり危惧している。
□	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・これから涼しくなり多少売上は伸びると予想されるが、景気回復はまだみられず、厳しい状況は続く。
□	百貨店（企画担当）	・前年はインバウンドの回復はある程度あったが、現状はその勢いを上回っている。現時点で大きな案件が予定されておらず、また、国内客の買上状態も安定しており、景気は変わらないと判断している。
□	百貨店（経営企画担当）	・地元消費の喚起としてプレミアム付商品券が発売されたため、売上への一定の効果が見込まれる。今年の秋冬は気温が下がりにくいとの予報も出ており、衣料品関係の売上への影響が懸念される。
□	百貨店（業務担当）	・高齢客の消費は慎重となっており、若い層はより通信費が増え、ファミリー層は食費の高騰やガソリン代の高騰などで財布のひもは固くなっている。所得の上昇は地方の中小企業まで及んでおらず、地方の個人消費が活性化するにはまだ時間が掛かりそうである。
□	スーパー（店長）	・今後の景気は横ばいと判断しており、プラス要因はないため状況は変わらない。
□	スーパー（総務担当）	・一部の大企業を除けば、物価上昇により消費者の実質賃金は減少しており、今後も生活防衛のための買い控え等、節約志向が続くと考えられる。
□	スーパー（経理担当）	・スーパーマーケットでは必需品以外の購入を控えている高齢者と若年層が多く、現在の人口構造ではすぐに景気に変化しない。

□	コンビニ（経営者）	・物価上昇により客がコンビニエンスストアを避け、ディスカウントショップに流れる動きが活発である。しかし、デイリー商品、飲料、生活用品等のコンビニエンスストア主力商品は安定しており、来客数は減少しているものの、売上は維持することができると考えている。
□	コンビニ（経営者）	・今後の社会情勢に景気上昇の要素があるとは考えにくく、景気は横ばいで推移する。
□	コンビニ（経営者）	・来客数は全体的に大きな変化がないと予想され、商品の値上げが落ち着かなければ、客の動向にも大きな変化はないと考えられる。
□	コンビニ（エリア担当）	・最低賃金の引上げにより、実質賃金が上昇し景気回復につながることに期待している。
□	コンビニ（エリア担当・店長）	・残暑が長く続いており、しばらくは飲料や冷たい食品が売れると予想される。冷麺等の売上が前年より伸びており、おでんや中華まんの売上が伸び悩んでいる。天候や気温により商品の需要が変わってくる状態である。
□	衣料品専門店（取締役）	・年末の状況が想像できないが、値上げが一段落するという情報もある。先行きが読めないため景気が良くなるとはいえないが、買物に外出する人は多くなると予想している。
□	家電量販店（店長）	・8～9月は、季節の影響が強く、比較的景気は好調である。しばらくは景気の先行きが不透明のため、景気は変わらないと予想している。
□	家電量販店（店長）	・現状では一部分野の需要が落ちていると考えられ、しばらくはこの状況が続くと予測される。
□	家電量販店（店員）	・前月と同様に商品単価は上昇しているが、販売量は減少しているため、全体的には変わっていない。この状態がしばらく継続すると予想される。
□	家電量販店（従業員）	・来客数の増加が続いているが、販売単価の下落も続いている。この傾向は今後も続くと予想される。
□	乗用車販売店（代表）	・景気が変わるような好材料が見当たらない。
□	住関連専門店（経営者）	・円安や原油価格の高騰等で原材料の値上げが続いており、高値の仕入れで経営を圧迫している。加えて、人件費の高騰と人手不足も深刻になっている。また、消費者も置き家具等の耐久商品の購入に慎重になっており、先行き不透明である。
□	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・冬商戦では物価の高騰が景気に悪影響を及ぼすと考えている。このまま物価の高騰、実質所得の悪化が報道されると、商圏の消費者心理に大きなマイナスの印象を与えると予想される。一方で、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたことから、旅行業界の回復に期待をしており、また、映画のヒット作品が出れば明るい材料になり得ると考えている。
□	一般レストラン（スタッフ）	・原材料などの値上がりによる利益の切迫や人口減少、高齢化の問題がある。インバウンドや県外からの観光客を対象としたビジネスは好調であるが、他の分野の地元客対象の企業の景気は悪化の一途である。
□	その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	・原価の高騰が当面続くと想定すると、3か月後の景気状況は変わらない。しかし、インバウンド需要が増えると改善してくる。
□	都市型ホテル（スタッフ）	・人手不足により宿泊稼働に制限があるが、旅行シーズンや週末にはイベント等が多く開催されるため、人の動向は多くなり、景気は上向くと考えられる。
□	タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどの更なる大流行がない限り、円安が続いている現状は一定のインバウンドが期待できる。そろそろ物価の安定を期待したい。
□	タクシー運転手	・タクシー台数と運転手が減少しており、他社のワゴン車等を利用するなど対策をしなければ売上が上向かない。
□	通信会社（企画担当）	・現状同様、光回線販売件数の低迷が続く。
□	観光名所（従業員）	・9月の大型連休はお盆期間より来客数が多く、連休終了後も来客数が減少することがないため、景気は変わらない。
□	理容室（経営者）	・市内の人口は減少していること、駅周辺の工事が2～3か月先には落ち着くことから、仕事量が変わってくる。様々な業種によって、景気は変わってくると考えられるため、特に景気は変わらない。
□	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・円安基調の改善もなくウクライナ情勢も今のままという状況では、エネルギー高騰で物価高がまだ続くことが予想され、景気回復には程遠い。

	□	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・病院の入院患者の確保はしばらく継続することが想定されるため、在宅サービスの利用者確保が厳しい状況は変わらない。
	□	設計事務所（所長）	・業務の結果は3か月後に出る。今月の結果は良くないため、3か月後の景気は現状が続く。
	□	住宅販売会社（従業員）	・こどもみらい住宅支援事業の交付申請の終了で一旦落ち着いた状況が続くが、次年度の子育て世帯への住宅支援強化の継続が具体化してくれば、再度、動きが活性化してくる。
	□	住宅販売会社（代表）	・業界全体としては完全に景気が悪くなっていくと予想される。人口などが縮小しており、若い世代の昇給が少ないことも含め、新築で建てることは厳しいと考えている。業況が上向きになるように自社で工夫しながら、購買意欲が上昇傾向になるよう戦略を組んでいる。
	▲	百貨店（販売促進担当）	・物価高騰による客単価の低迷が予測される。
	▲	スーパー（店長）	・商品やサービス単価が上昇し続けており、可処分所得は減少し続けている。このことから消費は冷え込むことが予測され、景気は後退すると考える。
	▲	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・賃上げが広がっていない。
	▲	スナック（経営者）	・今後、気温が下がるにつれ新型コロナウイルス感染症やインフルエンザが流行することが予想され、再び企業の宴会や外食を自粛する状況になるのではないかと心配している。
	▲	通信会社（役員）	・引き続き生活必需品や燃料費等の値上げが続いており、良くなる兆しがみえない。
	▲	ゴルフ場（営業）	・10月から再び値上げが実施されるが、賃金の上昇率が追いついておらず、購入意欲が低下すると予想される。
	▲	競馬場（職員）	・物価上昇の影響を賃金の上昇につなげていくことができれば景気が良くなる見通しもあるが、現状では不透明である。
	▲	設計事務所（所長）	・材料や製品単価の上昇がまだ続きそうである。生活必需品の価格上昇も懸念されるが、それに対して仕事の対価は上がりそうにない。
	▲	設計事務所（代表）	・今後も物価や金利の上昇傾向が続く。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・代わった内閣の顔ぶれをみると、景気対策より防衛に重点を置いているため、景気は悪くなる。
	×	衣料品専門店（店長）	・客が動く要素が特にないが、これから秋に向かって若干良くなることに期待したい。
企業 動向 関連  (九州)	◎	経営コンサルタント（代表取締役）	・大きな問題が発生しない限りは、ここ数か月の動きがそのまま順調に推移していくと予想している。
	○	家具製造業（従業員）	・繁忙期を迎える時期であるため、比較的、案件情報も多くなっている。また、受注単価も回復傾向にある。
	○	窯業・土石製品製造業（経営者）	・原材料やガス等の資源価格の値上げによる今後の流れは、取引先も予測が付いていると考えている。値上げが浸透しており、受注関係の見直しを行った状態から景気回復傾向となっているため、若干景気は良くなっていく。
	○	金属製品製造業（事業統括）	・インバウンドの回復による需要拡大が期待できる。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・材料費や人件費の上昇は今後も続く予想されるが、そのための生産体制の確立、受注量の確保などの対策をしていくと、徐々に景気は良くなっていくのではないかと取引先と話している。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	・事業再構築補助金申請が採択された。8億円超えの申請であったが、主に高機能の検査装置導入と周辺環境の整備費用となっており、2024年度中の稼働を目指している。
	○	電気機械器具製造業（総務担当）	・顧客からの情報から、景気はやや良くなることが予想される。
	○	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・継続して原料調達が好調であるため、今後の生産についても増加傾向が見込まれる。金、パラジウム、その他非鉄金属の価格も上昇しており期待が持てる。
	○	金融業（営業）	・行動制限はほぼ解除され、数年ぶりの日常に戻っている。ホテルに忘年会の予約をしたところ、前年は直前まで予約できる余裕があったが、今年は引き合いが多い状況のようである。

○	新聞社〔広告〕（担当者）	・高額物件の案件の出稿が回復している。
○	経営コンサルタント（社員）	・仕入価格が上昇している。売上のため価格を抑える努力はしているが、価格転嫁で値上げを余儀なくされている。しかし、高価格商品は売れており、2極化している。
□	農林水産業（経営者）	・10月まで原料が少なく、販売先に迷惑を掛けることになるが、11月以降は年末対応を含め、対応ができそうな状況である。現状から予想すると、販売が急に落ち込む業者は少ないと考えられる。しかし、暖冬の予想であるため、冬の消費が不安であると同時に、鳥インフルエンザも引き続き懸念される。
□	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・1～3月の景気が良くなる見込みである。
□	化学工業（総務担当）	・今年度の売上はほぼ前年度並みで推移する予想のため、年間を通じて、状況に余り変化はない。
□	一般機械器具製造業（経営者）	・客の予想では年末までこの状況が続くとのこと、他の産業分野に営業展開を行う必要がある。
□	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・上期は計画よりも受注量や販売量が上乘せの傾向で推移しており、下期の受注量や販売量は計画並みに推移していくことが予想される。
□	建設業（従業員）	・3か月後の景気は変わらないと予想されるため、公共工事の受注に向けて取り組んでいく。
□	建設業（社員）	・現状のままではコロナ禍より悪い状態になることも考えられ、下請工事でも引き合いが少ない状態である。官公庁には早期の発注を望んでいる。
□	通信業（職員）	・民間企業が施主の営業案件数は多少伸びているものの、官庁が施主の営業案件数と受注予想額が伸びておらず、今年度の受注目標に対して厳しい状況となっている。
□	通信業（経理担当）	・売上がやや低調傾向であることはここ数か月変わっていない。しかし、下期にかけて予定外の大きな案件がまとまりそうであるため期待をしたい。
□	金融業（従業員）	・自動車や住宅の販売が回復しており、百貨店やスーパーマーケットの売上も増加傾向である。また、公共工事は高水準で推移しており、飲食店や旅行関係の売上も上向いている。一方、原材料費の値上げや人手不足などで、一部の企業では経営状況が厳しくなっている。
□	金融業（調査担当）	・物価の上昇が企業活動の活性化や消費マインドの回復の足かせとなっている。多くの企業が人材確保にも苦慮しており、当面の景気は現状程度の推移となると見込んでいる。
□	金融業（営業担当）	・物価高、人手不足、人件費の負担が今後中小企業にのしかかると考えられる。一部の不動産業者では物件の高値が続いているため仕入れに慎重になっており、今後の景気は全体的に横ばいである。
□	不動産業（経営者）	・2～3か月先の受注内容等は変わりがなく、増加する見込みはない。
□	広告代理店（従業員）	・新型コロナウイルス感染症の第9波が発生しており、新規感染者数が3か月ほど増加している。ロシアによるウクライナ侵攻も長期化しており、中国の不動産業界に端を発した中国経済の不安定化もあることから、景気については当面足踏み状態が続く。
□	広告代理店（役員）	・業績を押し上げるような話題を欠いているため、景気に変化はない。
□	経営コンサルタント（社員）	・前月は動きが見られたが、今月は新たな情報がないため、今後も特に変化がないと予想される。
□	経営コンサルタント（代表取締役）	・Webのアクセス数や問合せ件数に大きな変化がないため、現状は変わらない。
□	その他サービス業〔物品リース〕（職員）	・DXなどデジタル需要の拡大による投資や観光需要などプラス材料も見られる。しかし、資源価格の上昇や円安の進行に伴う資材の値上げなどもあり大きく上昇するとは考えにくく、当面は横ばいで推移すると考えている。
□	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・今後、市町村から子育てに関係するニーズ調査の委託業務の発注が予測される。予算が少ない市町村が多いため、入札を考慮すると受注金額は多くは見込めない。このため、景気が良くなることは考えにくく、変わらないと判断される。

	▲	繊維工業（営業担当）	・廃業や倒産が増えると予想される。中小企業では、最低賃金の上昇やインフレなど、慣れていないことが多く対応できない。加えて、インボイス制度など煩わしい処理も増えている。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	・現状より一層受注が減る見込みである。
	▲	輸送業（総務担当）	・10月からの更なる物価高、エネルギー高などが家計の消費を抑える要因となりかねない。中国の景気後退も影響し、最低賃金上昇によるパート社員の仕事の抑制、インボイス制度開始に伴う事務作業の煩雑化、電子帳簿保存法への対応による経費増加など課題は山積みである。
	▲	金融業（調査担当）	・為替相場が27日に1ドル149円台と年初来の安値圏まで進み、前月より円安傾向が高まっている。今後、過度に変動が生じることがあれば、景気はやや悪くなると予測している。
	×	—	—
雇用 関連  (九州)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	・秋のイベントシーズンを迎えるため、売上増加が見込める。
	○	人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルス感染症関連の業務も一旦終了となるが、新規委託や派遣業務などの案件確保の流れが強く、求人数増加を見込んでいる。
	○	人材派遣会社（社員）	・年末年始に向け時期的な需要があるが、観光客も増加しており、接客業からの依頼も多いため、今後も増加が大いに見込める状況である。
	○	学校〔大学〕（就職支援業務）	・経済活動の正常化を背景に、内需を中心に緩やかに持ち直している。このため、一部の業界によっては働き手の不足があるため企業の新卒採用意欲は底堅く、今後もしばらくは現況が続くと予想している。
	□	人材派遣会社（社員）	・秋のイベントから年末商戦に向けた求人数は増加傾向にあるが、若年層の減少は続くため、紹介が困難になる。そのため、シニア人材の活用を強く推奨している。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・期待していた9月の求人の動きが良くないため、10月以降も求人数の増加には期待ができない状況である。
	□	新聞社〔求人広告〕（社員）	・人出が見込める季節であるが、物価上昇による買い控えが懸念される。
	□	職業安定所（職員）	・人手不足が続いており、受注を抑える対応をしている事業所もあるため、景気は変わらないと判断している。
	□	民間職業紹介機関（職員）	・既に新卒の就職戦線は大学3年生にシフトしており、旺盛である。現在、求人を出している企業は採用を継続しながら大学3年生に目を向け始めており、しばらくこの状況が続く。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどの感染拡大も続いており、新型コロナウイルス感染症発生前のような活動は難しい。値上げも続いており、生活防衛で余裕がない状態である。
	▲	職業安定所（職員）	・物価上昇による実質賃金の低下が続いており、個人消費の冷え込みが懸念される。
	▲	学校〔専門学校〕（就職担当）	・物価動向や依然続いている物価高や気候の影響、今後のウクライナ情勢や資源価格の動向など、経済的な面において不確実性が高いため、景気はやや悪くなることが予想される。
		×	—